

【全体】

今回予想で営業利益 100 億円を上方修正しているが、上期の予実績差異と下期見通しの影響はそれぞれどういうバランスで入っているのか。

中身に変化はあるが、上期はほぼ計画線で着地。上方修正した 100 億円の営業利益増加は為替によるアップサイド。

増減要因の要素別分析で、値上が当初予算は 770 億円、改訂予算では 550 億円に修正されている。半導体不足が解消すれば、利益にプラスが見込めるのか。

期初に公表した 770 億円にはモデルミックス改善と値上が含まれている。今回予想の値上等 551 億円はほとんどが値上。今回予想ではコストアップ・インフレ・物流費の上昇を緩和すべく更なる価格転嫁を織り込んでいる。価格には不可逆性があり、一旦値上げを行ったものを値下げすることはあまりしない。これによって、製品の収益性が少し戻ってくることを期待している。

下期は為替、原材料、出荷、価格転嫁がポジティブに働くが、上期ほど利益が増えない理由は。

為替、コストダウン、半導体のリカバリーがあるが、原材料が高止まる。下期はリスクを強めに織り込んでいる。また、米国内物流は改善しており、出荷も進んでいるがコストの課題がある。更に米国の人件費が高騰。これらの課題をすべて織り込んだ上で営業利益 2,000 億円としている。自助努力でトップラインを伸ばしたい。

金利上昇・インフレの需要環境への影響。足元で需要減速の気配はあるか。

市場動向を注視しているが、足元で需要のスローダウンが起きているという報告はない。一番収益性の高い米国マリン事業は、販売店・ポートビルダーの状況は変わっていない。欧州のスポーツバイクは、小売がどうなっているか見えないくらいバックオーダーが多い。新興国についても影響は受けていない。

マーケットシェアに変化は出ているか。

二輪車のマーケット状況は、パイプライン・生産拠点・物流レイアウト次第のため国によって異なるが、各社苦しんでいるので総じてシェアに変動はない。米国で生産している WV、ATV/ROV は競合も同じ状況で戦っている。生産できず稼働率が落ちて収益面に影響があるが、シェアは上がっている。

半導体について。現在の状況は。何時頃から良くなるのか。

年初は下期から良くなる見通しだったが、現時点では 2023 年以降と後ろ倒しの状況。代替品への切り替えは進んでいるが、対応できていない部品もある。二社調達や代替品開発は続けており、より多くの半導体を確保できるように交渉を進めている。

アセアンのプレミアムモデルの販売が増えるので価格転嫁しやすいと聞いていたが、上期は販売の進捗がよくないように見える。今後どのセグメントで価格転嫁が可能なのか。

原材料等の価格は年初から高騰しているが、何カ月分もあるバックオーダーには値上げができない。バックオーダー解消後に、実際には値上げの効果が出てくるため、タイミングが少し後ろにずれる。二輪車は上期から取り組んできたが、下期には満額で効くタイミングになる。また、マリン業界は 8 月から翌年のモデルイヤーになるので、上期の段階では船外機とマリン商品の値上げの効果はほとんど入らず、下期から値上げが効き始める。

12 月末の在庫水準はどうなっているのか。来年も在庫の積み増しが必要と考える商品があるのか。

船外機の今期末在庫は当社が適正と考える水準に近く見込みである。二輪車は今期末で適正在庫までは回復しないとみている。6 月末の在庫水準は 3 月末からさらに減少している。プレミアムモデルは特に半導体を多く使用するため、在庫が足りていない。先進国はかなりタイトな状況。

来期のオポチュニティとリスクを教えてください。

オポチュニティは、二輪車が中心の新興国でコロナ前の需要に戻り切っていない点。特にインドネシア・フィリピン・インドでパーソナルモビリティへのシフトが継続し、引き続き来年についても需要は堅調とみている。一方、先進国全体の需要には少しリスクがあるのではと注視しているが、現時点でネガティブな情報は入っていない。次に、収益面について、原材料価格は今年高止まっているものの、来年は少し落ち着くだろうとみている。

【ランドモビリティ】

今回予想でモデルミックスが減少した要因は、プレミアムモデルが作れなかったためか。

プレミアムモデルが半導体不足により生産できていないことで、モデルミックスは大幅に悪化している。

先進国二輪車事業の構造的な収益改善の取り組みについて、アップデートがあれば教えてほしい。

先進国については、上期は第2四半期から為替が良くなりプラスマイナスゼロ程度で推移した。下期は、昨年に比べ半導体をビッグバイクに優先的に充て、前期より1~2万台多く生産・出荷する計画。欧米向けなので為替のプラス効果も出る。下期に収益体質になるよう努力していく。

【マリン】

船外機事業について。上期実績は当初予想に対して少し届いていないが、下期は当初予想を据え置いている。物流や需要にリスクをみているか。景気後退懸念も強くなっているのので、状況を教えてほしい。

上期の販売は当初予想をショートしているようにみえるが、リードタイムが長くなっていることが原因で、生産は順調。米国の港に着くまでの時間が随分伸びている。米国国内輸送にも時間がかかっている。下期はこのパイプラインが改善することを期待している。また、船外機の未実現利益影響が出ているが、米国国内の物流が改善すれば下期以降で解消される。

船外機について、北米の今期末での在庫水準の見立てを教えてほしい。元々の計画に達するのか、更にそれを達成したうえで、増え続ける需要に応じて増収になるのか。

年初から日本からの出荷も現地の物流も含めて、サプライチェーンで課題があった。6月末までに日本からの出荷が進んだが、実際はトランジット在庫で小売につながっておらず、年初の実在庫とはほぼ変わっていない。物流はクリスマス商戦の影響が収まる10月以降にスムーズになると期待。米国の港湾ストライキのリスクはあるが、実在庫が落ちれば売上に繋がってくるので、その計画実現に注力している。

北米の高所得者が買うようなボート/船外機の需要に陰りが無いのは理解したが、その下のミドルクラスの所得者が買うようなWV/RV/オフロードバイクの需要にも変化はないのか。

各社が作れないため、全く在庫が足りておらず、本当の意味での小売需要がどこまで続くのかが分からないほど、バックオーダーが溜まってしまっている状況。

【ロボティクス】

車載向け以外の需要スローダウンが懸念されるが、特にチップマウンターの下期・来年の出荷見通しはどうか。

今年も販売は多いが、去年が特に伸びた。上期は、調子の良かった中国向けが上海ロックダウンや中国経済の影響でスローダウンした。一方、日本や欧米向けは少しずつ増えてきている。下期は、自動車や5G関連が増える見通しで、受注見込みがあるため、生産能力を強化し出荷していく。半導体の確保が課題。

以上